

2024 年度医療看護学部就職先部署の教育担当者によるコンピテンシー達成度調査

<調査の概要>

本学部は、看護学生が卒業時に身につけるべき能力として5つのディプロマポリシー(以下 DP)、それらを達成するために必要な知識・スキルとして10のコンピテンシー(以下 CP)を挙げています。教育活動の外部評価として、順天堂大学関連病院就職者193名が所属する部署の協力を得て、コンピテンシー達成度調査を実施しました。

調査目的 医療看護学部卒業生のコンピテンシーに関する達成度を評価する。

調査方法 Google Form によるアンケート調査(無記名)

評価は、「4. 十分到達していた」、「3. 少し到達していた」、「2. あまり到達していなかった」、「1. 全く到達していなかった」、さらに該当する場面が少なく、評価できない場合を「0. 評価ができない」としました。

対象者 2023 年度医療看護学部卒業生のうち、順天堂大学関連病院就職者193名が所属する部署の上司あるいは教育担当者／プリセプター

調査期間 2024 年6月1日～6月30日

結 果 回答数174(回答率90.2%)

<調査結果の概要>

達成度評価5段階のうち、「0. 評価ができない」を除き、4および3を肯定的評価、2および1を否定的評価として表に示し、詳細は図に示しました。

肯定的評価の割合が高い(70%以上)CPは、DP「豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力」を支えるCP「他者を思いやり慈しむことのできる能力」「教養を身につけた市民として行動できる能力」「倫理的課題に対応できる基礎的能力」「人間関係を構築できるコミュニケーション能力」でした。肯定的評価の割合が低い(50%未満)CPは「国際的視野をもって活動できる基礎的能力」「保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力」「健康レベルに応じた看護を展開する能力」でした。また、「評価ができない」は、割合が高い順に「国際的視野をもって活動できる基礎的能力」、「保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力」、「健康レベルに応じた看護を展開する能力」でした。

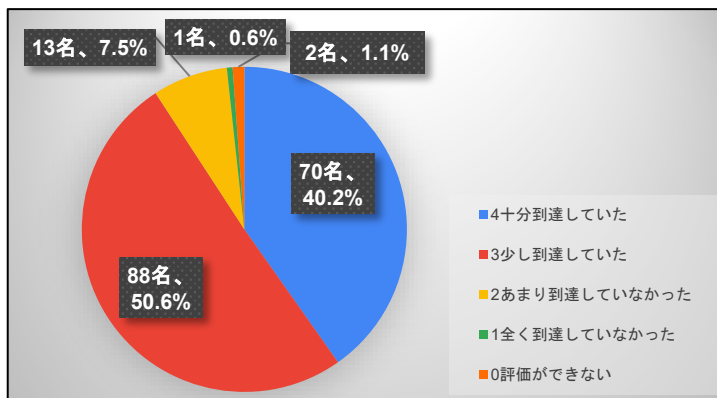
表 ディプロマポリシーとコンピテンシーの対応及び評価の割合

ディプロマポリシー	コンピテンシー	肯定的 評価	否定的 評価	評価 できない
豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力	1. 他者を思いやり慈しむことのできる能力	90.8%	8.1%	1.1%
	2. 教養を身につけた市民として行動できる能力	73.5%	20.7%	5.7%
	3. 倫理的課題に対応できる基礎的能力	74.1%	19.5%	6.3%
	4. 人間関係を構築できるコミュニケーション能力	86.3%	13.8%	0.0%
個人、家族及び地域 社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力	5. 医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力	60.9%	36.2%	2.9%
	6. エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力	53.4%	40.8%	5.7%
	7. 健康レベルに応じた看護を展開する能力	45.4%	20.1%	17.2%
関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力	8. 保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力	35.1%	40.8%	24.1%
グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力	9. 国際的視野をもって活動できる基礎的能力	27.0%	18.4%	54.6%
自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力	10. 生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力	68.3%	21.8%	9.8%

【結果の詳細について】

コンピテンシー 1

他者を思いやり慈しむことのできる能力

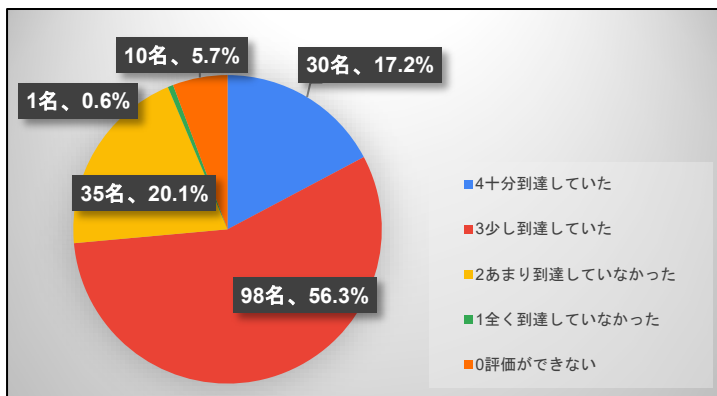


〈評価の視点〉

- ・ 一人ひとりの人間の独自性を尊重することができる。
- ・ 自己と他者の感情を適切に識別できる。
- ・ 他者の経験を共感的に聴く能力を身につけている。
- ・ 他者の置かれている状況・立場について配慮ある行動がとれる

コンピテンシー 2

教養を身につけた市民として行動できる能力

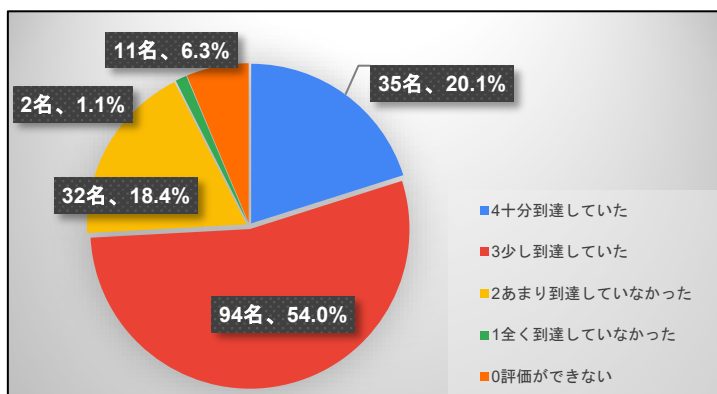


〈評価の視点〉

- ・ 人類の文化、社会と自然に関する基本知識、対象の特性や場に応じた適切な表現力を身につけている。
- ・ 特定の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。
- ・ 情報通信技術(ICT)を用いて、情報を収集・分析し、表現できる。
- ・ 情報や知識をさまざまな角度から理論的に分析し、表現できる。

コンピテンシー 3

倫理的課題に対応できる基礎的能力

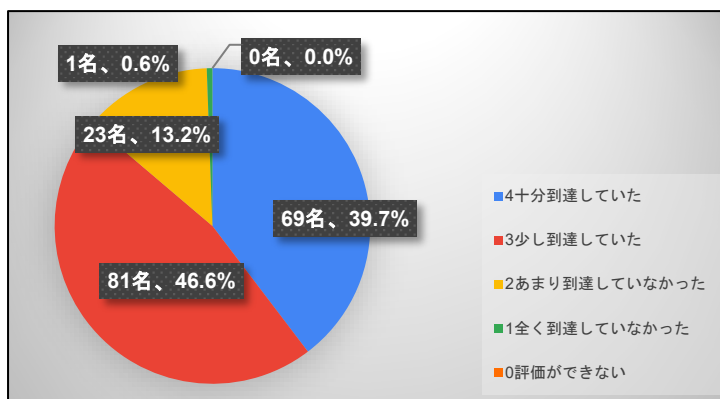


〈評価の視点〉

- ・ 社会的、文化的な背景、価値観の多様性を理解し、その差異に関わらず相手を尊重した行動がとれる。
- ・ 人間の尊厳及び人権の意味を説明することができる。
- ・ 社会の変化、科学技術の進歩によって生じる倫理的課題を説明することができる。
- ・ 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することができる。

コンピテンシー 4

人間関係を構築できるコミュニケーション能力

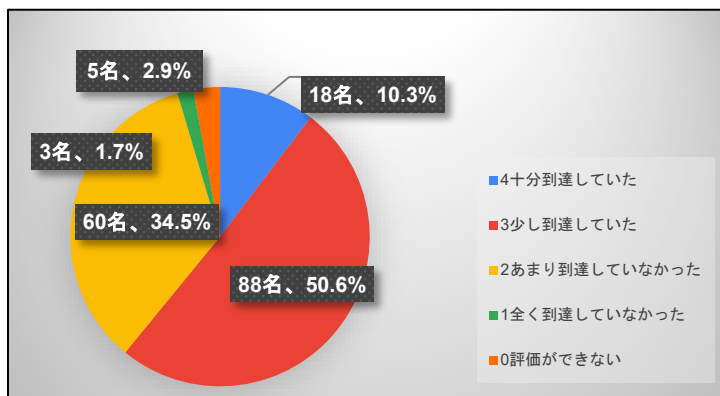


〈評価の視点〉

- ・ 対人関係において、自己の特性に気づき内省できる。
- ・ 集団の一員として信頼関係の形成、協働的な関係を築くことができる。
- ・ 看護の対象となる人々と援助的なコミュニケーションを展開できる。
- ・ 看護の対象となる人々と援助的な関係を形成できる。

コンピテンシー 5

医学及び関連領域の知識を看護に応用できる能力

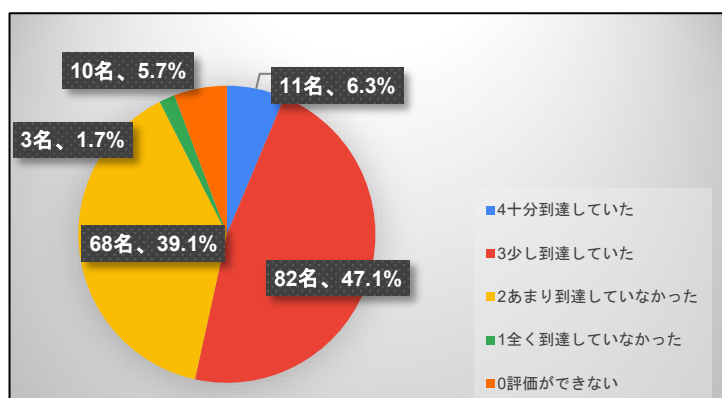


〈評価の視点〉

- ・ 人体の構造と機能を説明できる。
- ・ 成長・発達を理解して看護実践に応用できる。
- ・ 疾病の病態、診断、治療を理解して看護実践に応用できる。
- ・ 人間の心理・行動を理解して看護実践に応用できる。
- ・ 人々を取り巻く環境を理解して看護実践に応用できる

コンピテンシー 6

エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力

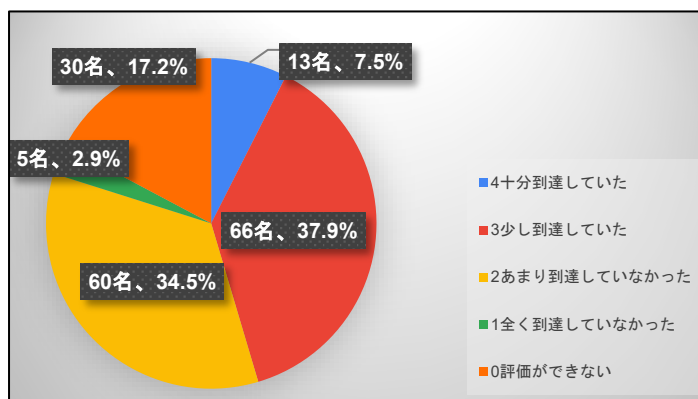


〈評価の視点〉

- ・ 健康レベルを成長発達に応じてアセスメントできる。
- ・ 個人と家族の生活をアセスメントできる。
- ・ 地域の特性と健康課題をアセスメントできる。
- ・ 批判的思考や分析的方法、問題解決法を活用して、人々の健康レベルに合った看護計画を立案できる
- ・ 生活・診療・治療場面に応じた適切な看護・支援ができる。
- ・ 自己の実践に対して適切に評価できる。
- ・ 看護の課題を解決するために、適切に情報を活用することができる。

コンピテンシー 7

健康レベルに応じた看護を展開する能力

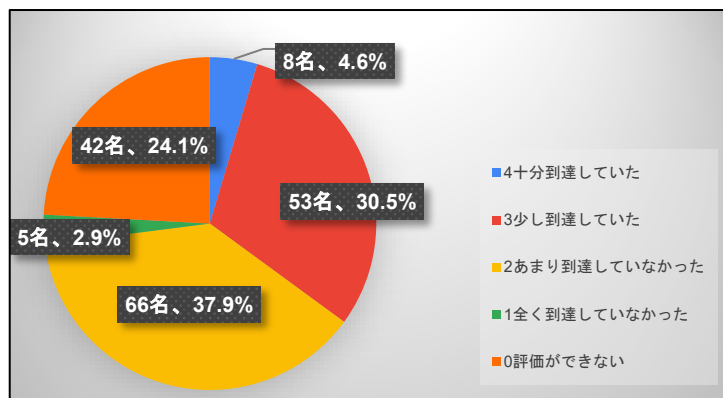


〈評価の視点〉

- ・ 健康の保持増進、疾病予防のための課題をアセスメントし、適切な看護が実践できる。
- ・ 急激な健康破綻と回復過程にある患者の全身状態をアセスメントし、適切な看護が実践できる。
- ・ 慢性疾患および慢性的な健康課題を有する患者と家族をアセスメントし、適切な看護が実践できる。
- ・ 終末期にある患者と家族を全人的に理解し、適切な看護が実践できる。

コンピテンシー 8

保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力

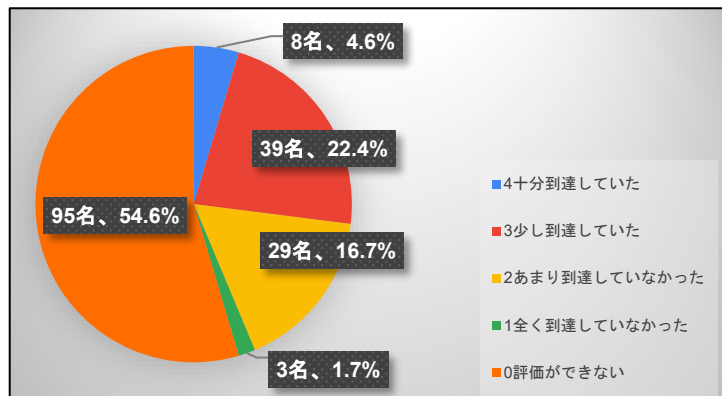


〈評価の視点〉

- ・ チーム医療における看護職及び多職種の役割を説明できる。
- ・ 保健医療福祉サービスの継続性を説明できる。
- ・ 疾病構造の変遷、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割について説明できる。
- ・ 看護を発展させていくことの重要性について説明できる。

コンピテンシー 9

国際視野をもって活動できる基礎的能力

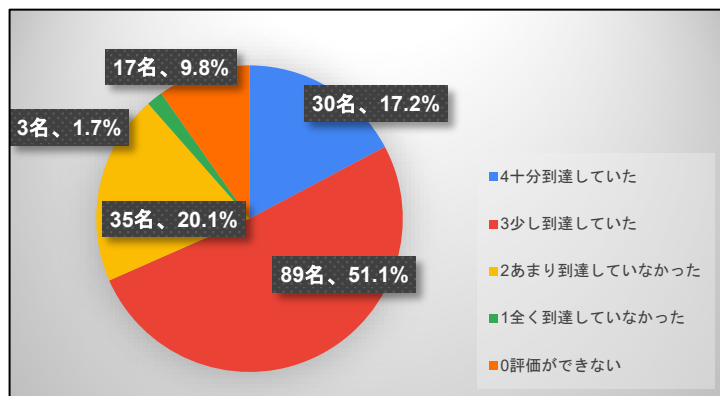


〈評価の視点〉

- ・ 多様な価値観を持つ人々の違いを理解し、人種・国籍・性別などに関わらず、公平に対応し、行動できる。
- ・ 世界の動静や社会の変化に関心を持ち、時代の変化に対応した判断ができる。
- ・ 国内外の看護の動向に関心に向け、看護の役割や課題を説明できる。
- ・ 国際的視野に基づく思考ができ、さまざまな国籍や文化を持つ人とコミュニケーションができる

コンピテンシー10

生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力



〈評価の視点〉

- ・ 自己の日々の学習を振り返り、課題に取り組むことができる。自ら学ぶことの重要性について説明できる。
- ・ 専門職としてのキャリア発達の過程や、生涯学習の意義について説明できる。
- ・ 人々の健康上の問題・課題に対する、看護における最新の実践や研究の動向に関心を示し、看護学の発展を探究していく姿勢を持っている。